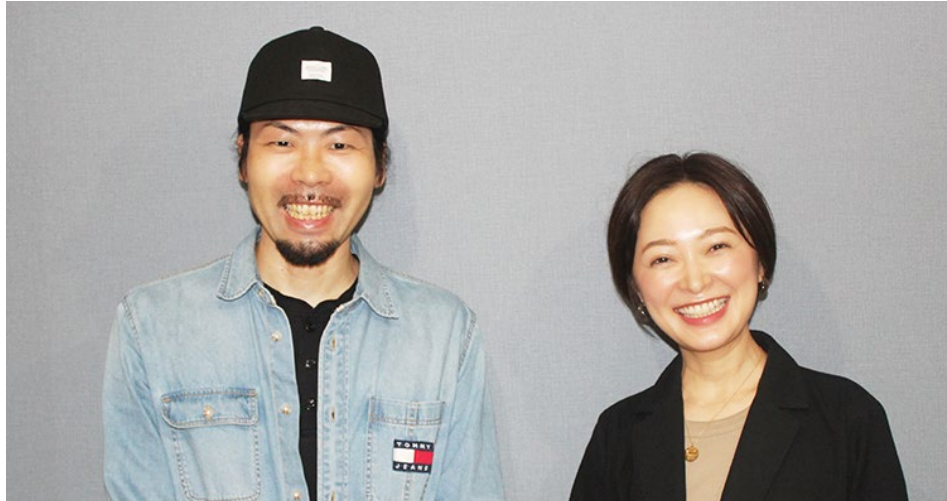


株式会社 CAREMAN

東京都中野区上高田 1-31-22-201 <http://www.careman.jp/>

代表取締役社長
徳田 章太郎



タレント
市井 紗耶香

利用者に寄り添い、日常を共に楽しむ—— 障がい者向け訪問介護を手掛ける事業所

東京都中野区を拠点に、障がい者を対象にした訪問介護を専門的に行う『CAREMAN』。2022年の設立以来、一人ひとりの日常に寄り添ったサポート体制で利用者と共に歩みを進めている。本日は、タレントの市井紗耶香さんが同社の徳田社長に様々なお話を伺った。



——はじめに徳田社長の歩みから。

東京都の出身です。学生時代から音楽が好きで、20歳の時から本格的にバンド活動を始めたのですが、音楽だけで食べていくことは難しく、アルバイトをしながらの生活でした。そんな中、バンドマンの先輩が訪問介護のアルバイトをしていたことがきっかけで介護に携わるようになり、この仕事が好きになっていったんです。やがて結婚をして子どもにも恵まれて音楽は趣味になり、介護の仕事に専念するようになりました。

——その後、独立を果たされた経緯とは？

何度か事業所を移りましたが、ずっと施設ではなく訪問介護の事業所で経験を重ねてきました。前勤務先が一番長く、10年以上勤務しましたね。その中で色々と思うところがあり、自分の可能性を試してみたいという思いが芽生えてきたことで独立に踏み切りました。2022年に法

人を設立し、その翌年に『ケアマン介護事業所』をスタートして現在に至っています。

——立ち上げ当初は順調に進まれて？

当初はなかなか軌道に乗らず、相談支援員さんの事業所にアプローチしたり、営業に行ったりしていました。この業界は口コミと紹介が重視される傾向にあり、新規事業所だとなかなか利用者さんを紹介してもらえないのですが、例えば30分の掃除など小さな仕事を丁寧に行うところから信頼を積み重ね、徐々に利用者さんが増えていきました。私が初めて介護のアルバイトをしたのが八王子だったのですが、現在は八王子の利用者さんが多く、不思議なご縁を感じますね。

——事業所としての特徴、強みとは？

障がい者の方への訪問介護に特化していること、そして利用者さん一人ひとりに寄り添い、「日常と一緒に楽しむ」という姿勢を大切にしていることですね。フランクに接しながらも、親しくなりすぎない適度な距離感を心掛けています。スタッフに対しては給料や福利厚生などは手厚く、風通しの良い環境を用意しています。かつて事業所で勤務していたころに待遇面などで働きにくさを感じたことがあり、スタッフには同じような思いを

させたくないんです。現在は20名ほどのスタッフに恵まれており、経験者が中心で心強いですね。離職率もとても低いんですよ。

——介護業界は人手不足や高齢化に悩んでいると聞きますが、社長のスタッフさんへの想いが伝わっているからこそ人に恵まれているのでしょうか。社長が事業を推進する上での原動力とは何ですか。

やっぱり家族の存在でしょうか。妻は独立する時に背中を押してくれたんです。介護の経験はなかったのですが、学生時代に資格を取っていたので、独立後は仕事を手伝ってくれています。また2人の子どもたちは可愛い盛りで、家族で過ごす時間が仕事の原動力ですね。

——最後にこれからの夢や目標を。

ゆくゆくは障がい者向けの施設を手掛けたいですね。一時的に入居して、自立に向けて準備ができるような場にしたい。そのためにも、現在のパートさんが中心の体制から少しずつ正社員を増やしていきたいと考えています。

(2025年5月取材)

「利用者さんによっては、10時間も一緒に過ごされる場合があるそうです。一緒に食事をされたり、ライブや握手会に行かれたりすることもある。お世話をするというより、共に楽しんでいる姿勢が素敵だと感じました！」

